

～ 踏切事故「0」をめざして ～

鉄 道 部

**鉄道部では鉄道事業者と連携し、踏切利用者に
対する踏切事故防止啓発活動を展開しています**

10月3日(土) 鉄道部(安全指導課3名)ではJR東日本新潟支社(安全企画室等6名)と連携し、「踏切事故防止キャンペーン」を展開し、踏切事故防止の啓発活動を行いました。

これは、新潟運輸支局における「マイカー点検教室」にあわせて実施したもので、支局構内は60台以上のマイカーとともに100名近くの来場者で大盛況となりました。

当日の朝はあいにくの空模様でしたが、昼近くには日がさしはじめ、雨天を想定して検査場測定コース内に準備した踏切模擬装置を急遽、屋外に設置し直すなど多少バタバタしましたが、予定どおり約100名(20名×5グループ)の参加者に対し啓発を行うことができました。



(踏切保安装置(模型)遮断機 警報機)



(参加者に啓発チラシ配布する職員)

このキャンペーンでは、当局啓発チラシ等の配布とともに、サイズは小さいが本物同様の踏切保安装置と実車を用い、踏切の正しい通行のしかたや閉じこめられた場合の脱出方法の他、本物の非常ボタンの操作、非常用発炎筒の着火など、本番さながら緊張の雰囲気の中で行いました。遮断竿は内側から外側へ自動車で押し上げて脱出できる構造となっていることを実地で説明した際には、参加者から「ホー」、「こんな構造になっているのか!」など、感嘆の言葉があちこちから聞こえ、説明を終えてからも実際に自分の手で動かし、確かめた方もおられました。



(発炎筒で列車に合図を送る様子)



(遮断機を押し上げ脱出する様子)

また、「列車はどちらから来るか判るのか」、「全ての踏切に非常ボタンがついているのか」、「事故を起こすと費用はどのくらいかかるのか」、「損害賠償しなければならないのか」など質問も多く出て、参加者の意識の高さを感じました。

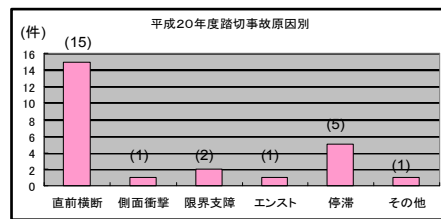
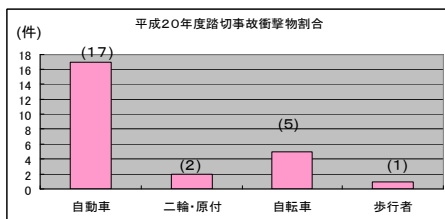
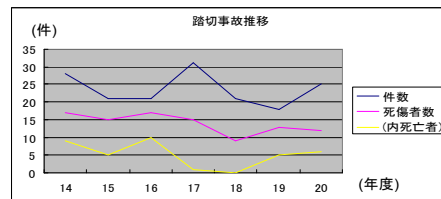
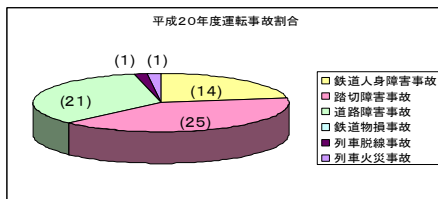
10月7日（水）にも、上越市の上越ショッピングセンターアコーレにて同様のキャンペーンを展開し、約200名の方に啓発チラシ等を配布のうえ、事故防止の啓発活動を行いました。

今後も、機会ある毎に各鉄道事業者と連携し、鉄道運転事故の約半数を占めている踏切事故を「0」にするため、一般通行者に対し啓発に努めていきます。

踏切通行時には安全確認を！

【踏切通行時の留意点】

- 踏切では、一旦停止を確実に行いましょう。
- 見通しの良くない踏切では、安全確認を十分行いましょう。
- 警報機が鳴ったら、踏切内には絶対入らないようにしましょう。
- 通勤時や帰宅時には、時間的余裕を持ち、あせらずに安全確認を十分行いましょう。
- 踏切の向こう側に渡りきれることを確認しましょう。
- 踏切事故は冬期間に多く発生しています。スリップには特に注意しましょう。
- 落輪は広い踏切でも発生しています。踏切道内のすれ違いでは、落輪に注意しましょう。
- 落輪して動けなくなったら、踏切に設置されている「支障報知ボタン」を押すか、自動車の「発炎筒」で列車に合図をしましょう。
- 遮断機で踏切内に閉じ込められたら、あわてずに遮断棹(竿)を自動車でゆっくり押し脱出しましょう。



(注)資料は北陸信越運輸局管内(新潟・長野・富山・石川の4県)のデータです